

航路標識のLED化及び太陽電池化により 停電時も船舶交通の安全を確保

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要: 長崎県平戸港の灯台に使用している機器を災害等における安定運用が可能な機器(LED、太陽電池)へ換装した結果、令和6年台風第10号に伴う停電が生じた際も航路標識の消灯を防止し船舶交通の安全を確保。

対策名: 63-4 航路標識の耐災害性強化対策(信頼性向上対策) <5か年加速化対策>【国土交通省】

【事例】平戸港灯台信頼性向上対策

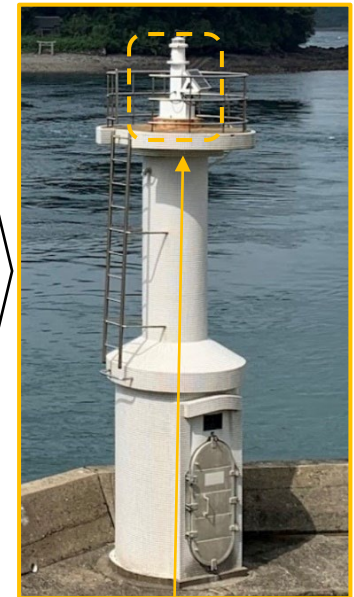
- 実施主体: 海上保安庁 第七管区海上保安本部
- 実施場所: 長崎県平戸市
- 事業概要: 令和元年房総半島台風や令和2年の台風の影響により、航路標識の消灯事故等が多発したことを踏まえ、対策を実施している。平戸港灯台の消灯を防止するため、光源のLED化(省電力化)、電源の太陽電池化、配電線の撤去を実施した。
- 事業費: 全体事業費 約0.08億円(令和4年度)
(うち5か年加速化対策 約0.08億円)
- 災害の外力、被害と効果:
令和6年台風第10号の際、平戸港灯台の周辺地域では停電が生じたが、光源のLED化及び電源の太陽電池化により消灯することなく安定した航路標識としての機能を維持し、船舶交通の安全を確保した。

対策前

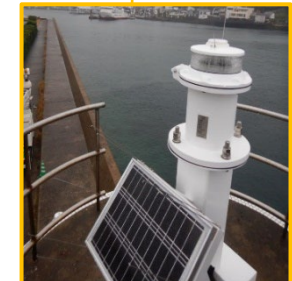


▲配電線堤上埋設

対策後



▲白熱電球



▲LED灯器、太陽電池パネル

指標	R5 (実績)	R7 (目標値)
災害時でも信頼性向上及び安定運用を図るため、災害に強い機器等(817箇所)の整備率	69%	83%